



## 若手技能者27人が 第48回技能五輪全国大会に出場

日本の暮らしを陰で支える技能者たち。その技術力を次代に伝え、また、多くの人にもものづくりの大切さを知ってもらうことを目的に、毎年「技能五輪全国大会」が開催されています。同大会は、金属と金属を接合する「電気溶接」や機械・電子・情報工学を融合した新しい技術分野である「メカトロニクス」など、約40ある競技職種別に23歳以下の技能者が技を競うものです。2010年10月、第48回目となる同大会において、当社からは5職種27人が参加しました。

2年連続で出場した今野貴大さんは、「何度か挫けそうになったり、もう練習したくないと思い、会社を休んだこともありました。しかし、技能五輪への出場をやめたいと思ったことはありませんでした」と、この2年間で振り返ります。考えたり悩んだりすることも多かった日々。「大会では賞を取ることも大事ですが、もっと大事なことに気がきました」と、指導員をはじめ応援してくれた多くの人へ感謝の気持ちがあふれる経験となりました。

当社唯一の女性出場者となったのは田代ひとみさんです。「自分の限界に挑戦したい」という決意を胸に、練習では技術面のみならず身体的・精神的な強化にも努めたと言います。「体カトレーニングではジムに通い、メンタルトレーニングでは本で自分なりに勉強して呼吸法やポジティブ思考を身に付けました」。技能五輪を「自分と向き合うもの」と考え、「人間力も高められる経験ができた」と実感したようです。

2人一組で出場する「メカトロニクス」では、久保竜治さんと江



参加者全員で記念撮影



上／指導員をはじめ多くの仲間たちの応援が、今野さんの原動力となった  
下／久保さんと江見さんペア。互いの息を合わせて競技に挑んだ

見直人さんのペアが参加しました。「何でも言い合える雰囲気をつくり、結束力を高めました」と言うように、何よりコンビネーションを大切に2人。心をひとつにして頑張った貴重な経験は、今後どんな辛い場面に遭遇しても乗り越えられる力となりました。

技能五輪に挑んだのは、選手や指導員だけではありません。応援や協力という周りの人からの支えがあったからこそ頑張れた、と話す選手もいます。「周囲の人からの期待が良いプレッシャーとなり、有意義な練習ができました」と語るのは山口浩さん。「今後は、技能五輪の経験をどう職場で活かせるかが課題だと思っています。この経験を踏み台にして現場人として大きい存在になれるよう頑張りたい」と意気込みを語ります。そして最後に、「自分のやるべきことをしっかりやり、悔いのないように大会を楽しんでください」と、これから出場する後輩にエールを送りました。

選手全員が全情熱を注ぎ、試行錯誤しながら練習を重ねて挑んだ技能五輪。今大会では9人が賞を獲得しました。技能者として、社会人として、人として一回り大きくなった彼らは、同大会で培った経験を現場で活かしてこれからも技を磨き、当社のもので支えていきます。

右／銅賞を獲得し、満面のスマイルが飛び出した田代さん。この経験は一生の宝物に  
下／「各選手の技術を見て影響を受けたことも、大きな収穫だった」という山口さん

